

平成21年（2009年）2月12日  
都市計画審議会資料  
都市整備部都市計画調整担当

（案）

# 中野区都市計画マスタープラン

改定原案

中 野 区

# 目次

---

序章	中野区都市計画マスタープランの位置づけ	1
	1. 中野区都市計画マスタープランの位置づけと役割	2
	2. 中野区都市計画マスタープランの改定の目的	3
	3. 中野区都市計画マスタープランの構成	6
	4. 計画目標年次と時代の変化に対応した見直し	7
第1章	中野区のまちの現状と課題	8
	1. マクロな社会経済動向	9
	2. 中野区のまちの現状と動向	11
	3. 都市整備上の課題	12
第2章	全体構想	15
	1. 都市整備の基本理念	16
	2. 都市整備の目標	16
	3. 都市整備の基本方針	24
第3章	地域別構想	64
	1. 地域区分の設定と基本的考え方	65
	2. 地域別まちづくり方針	66
第4章	都市づくりの推進方策 ―中野のまちをともにつくる―	102
	1. 協働によるまちづくりの推進	103
	2. 身近な地区を単位とするまちづくりの推進	104
	3. 協働のまちづくりの進め方	105
	4. 区の取り組みの強化	106
資料編		108
	1. 中野区都市計画マスタープラン改定の目的と視点	109
	2. 中野区都市計画マスタープラン改定の経過	略
	3. 用語解説	略

# 序 章

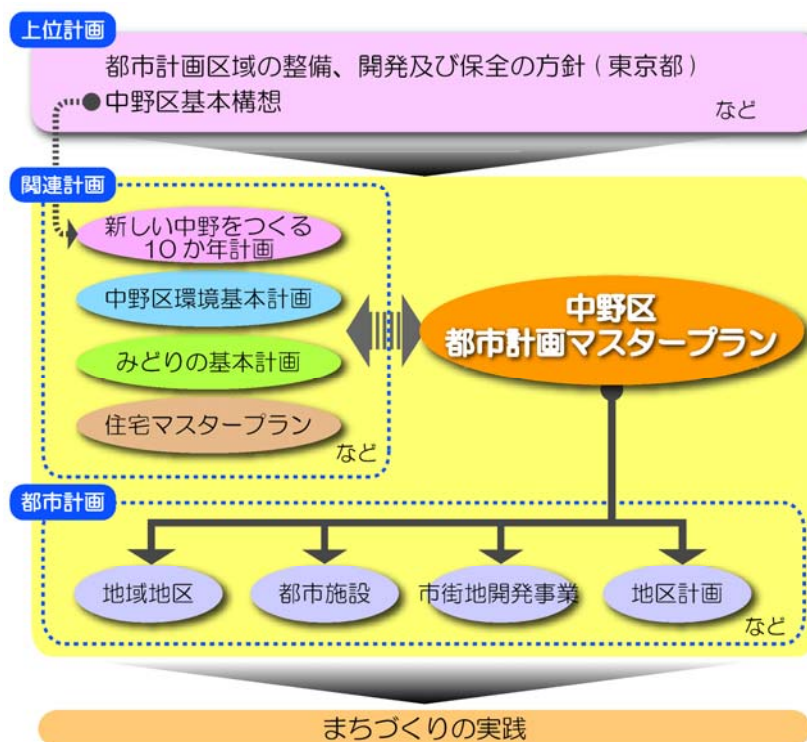
# 1. 中野区都市計画マスタープランの位置づけと役割

中野区都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に位置づけられている「中野区の都市計画に関する基本的な方針」です。

中野区都市計画マスタープランは、「中野区基本構想」や東京都が定める「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して定めることになっています。

また、区の基本計画である「新しい中野をつくる10か年計画」や、「中野区住宅マスタープラン」、「中野区みどりの基本計画」、「中野区環境基本計画」などの関連計画や、「東京の新しい都市整備ビジョン」、「防災都市づくり推進計画」などの東京都による広域的計画との整合性を確保して定めます。

中野区都市計画マスタープランの役割は、将来を見据えた中野区の今後の都市づくりの基本的な指針となるとともに、地域地区や都市施設、市街地開発事業などの都市計画を決定する際の基本的な方針を示すものです。具体的な都市計画の決定は、都市計画マスタープランに即して定めることになるので、将来の都市計画の決定を見据えて都市計画マスタープランを定める必要があります。



## <参考>都市計画法の規定

(市町村の都市計画に関する基本的な方針)

第十八条の二 市町村は、議会の議決を経て定められた当該市町村の建設に関する基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即し、当該市町村の都市計画に関する基本的な方針（以下この条において「基本方針」という。）を定めるものとする。

2 市町村は、基本方針を定めようとするときは、あらかじめ、公聴会の開催など住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

3 市町村は、基本方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表するとともに、都道府県知事に通知しなければならない。

4 市町村が定める都市計画は、基本方針に即したものでなければならない。

## 2. 中野区都市計画マスタープランの改定の目的

中野区都市計画マスタープランは、以下に掲げる事項に対応するため、必要な改定を加えるものです。

### 2-1. 改定前のマスタープランの残した主要課題への対応

都市計画マスタープランの達成状況を見てみると、都市整備面において大きく次のような課題が残されており、今後、改定前の内容以上に方向づけを強化し、より一層の推進を図る必要があります。

#### (1) 災害に対する安全性の確保

- まちづくりの目標の一つとして「火災や地震、都市型水害などの災害に強いまち」を掲げ、「防災まちづくり」に取り組むこととしましたが、狭あい道路が多い木造密集市街地における震災・火災に対する脆弱性、河川洪水や内水氾濫などによる水害の危険性は残っています。
- 区民の生命・財産の安全確保は都市づくりの根幹をなすものであり、都市計画マスタープラン改定にあたって、首都直下型地震等の発生の危険性が増大しているとの認識に立ち、早急に**中野のまちの安全性の改善に向けた方向づけを強める**必要があります。

#### (2) まちの活力の向上

- 「商店街や住宅地と調和した産業が活気にあふれ、人々が集い、交流し、魅力あるにぎわいのあるまち」をまちづくりの目標の一つに掲げましたが、現状ではその取り組みはあまりすすんでいるとは言えません。また、「JR中央線駅や幹線道路沿道などの商業・業務地に拠点集約化を図る」との方向づけに基づく拠点形成もまだ充分ではありません。また、都市文化についての記述はされていません。
- 今後、中野のまちの活力を高めるため、中野駅周辺まちづくりなどを通じて**商業・業務機能などの強化、産業活性化・都市文化の創造に向けた取り組みを一層推進**する必要があります。

#### (3) まちづくりに向けての合意形成の促進

- 「区民主体のまちづくりとして、区民による地域ルールづくりをすすめ、実践する」としていましたが、具体的なまちづくり事業の推進やルールづくりは、関係者間の合意形成が円滑にすすまないこともあり、必ずしも活発にすすんでいるとは言えません。
- 今後、都市計画事業や地区計画の決定、地域地区変更などの前提となる区民・土地所有者等・事業者・行政等の間での**合意形成を促進**する必要があり、そのためには、**より身近な地区を単位としたまちづくりを推進・支援**することが必要です。

### 2-2. 社会経済状況の変化への対応

#### (1) 地球環境問題の深刻化への対応

- 地球温暖化、ヒートアイランド現象など地球環境問題が深刻化しており、省資源、環境負荷低減、資源循環の推進などの全地球的な緊急を要する課題に中野区としても積

極的に取り組む必要があります。

- そのため、地球環境に配慮した都市づくりを新たに都市計画マスタープランに位置づけ、実践する必要があります。

## (2) 少子・高齢化の進展への対応

- 今後の高齢化に対応し、高齢者が健康に住み続けることができる都市づくりをより一層推進する必要があります。
- 単身若者層は所帯を持つと区外に転出する傾向が顕著で、このままでは、少子化の進行とあいまって中野区に住む子どもがますます少なくなることが懸念されます。子育て層が住みやすく、次代を担う貴重な人材である子どもたちの歓声がこだまする都市づくりを推進する必要があります。

## (3) 都市計画に関連する法制度改正への対応

- 都市計画法における都市計画提案制度の創設や、景観法、バリアフリー新法などの新たな法律が制定されており、それらの活用を図るため、新たな法制度に対応できるように都市計画マスタープランを見直す必要があります。

## 2-3. 中野区の新たな都市整備課題への対応

---

### (1) 中野駅周辺まちづくりへの対応

- 警察大学校等跡地(面積約15ha)における中野の顔となるまちづくりをはじめとして、中野駅周辺において、**賑わいと環境の調和したまちづくりへの取り組み**を始めているところであり、それらを踏まえた都市計画マスタープランとする必要があります。

### (2) 西武新宿線の連続立体交差化及び沿線まちづくりへの対応

- 平成20年5月に西武新宿線中井駅～野方駅間について国土交通省が連続立体交差事業新規着工準備箇所として採択し、西武新宿線の立体化が具体的に動き出すことになりました。
- そのため、**新たな動きと整合するように改定するとともに**、鉄道立体化にあわせた駅周辺の交通結節機能強化など**沿線まちづくり推進の方針を新たに盛り込む**必要があります。

### (3) 国家公務員宿舎・小中学校などの跡地活用の推進

- 国家公務員宿舎や国の機関などの移転・廃止に伴う跡地や、区立小中学校の学校再編に伴う跡地を有効利用することが必要であり、これらの**大規模用地の適切な土地利用の方針**について、新たに都市計画マスタープランに方向づける必要があります。

## 2-4. 中野区の個性の強化

---

- 居住地や企業立地の選択などについての都市間競争が激化する中で、人々が中野で住みつけ働きつづけることを、企業が中野でビジネス活動をつづけることを選択し、住むにも働くにも魅力的な都市を形成するため、また、それにより健全な都市経営を継続するため、**中野らしさ・個性、中野ならではのブランドを強化・育成**する必要があります。

## 2-5. 上位計画等との整合性の確保

---

- 改定前の都市計画マスタープランの策定（平成12年）後、新しい「中野区基本構想」が平成17年3月に策定され、また、「東京都都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（都市計画区域マスタープラン）が平成16年4月に改定されたため、これらの新しい上位計画や広域的計画に整合するよう見直す必要があります。
- 中野区基本構想は、都市整備に関わる領域の柱として「**持続可能な活力あるまちづくり**」を位置づけ、都市計画区域マスタープランは、都市づくりの理念として「**都市活力**」、「**持続的発展**」、「**都市文化**」、「**安全で健康**」などを位置づけており、都市計画マスタープランはそれらと整合を図る必要があります。

### 3. 中野区都市計画マスタープランの構成

章立て	項目
序章 中野区都市計画マスタープランの位置づけ	1 中野区都市計画マスタープランの位置づけと役割 2 中野区都市計画マスタープランの改定の目的 3 中野区都市計画マスタープランの構成 4 計画目標年次と時代の変化に対応した見直し
第1章 中野区のまちの現状と課題	1 マクロな社会経済動向 2 中野区のまちの現状と動向 3 都市整備上の課題
第2章 全体構想	1 都市整備の基本理念 2 都市整備の目標 2-1 将来の中野区のまちの姿 2-2 将来のライフスタイル 2-3 将来人口の想定 2-4 将来のまちの骨格 3 都市整備の基本方針 3-1 土地利用の基本方針 3-2 活力を生み出す都市づくりの基本方針 3-3 良好な住まい・住環境づくりの基本方針 3-4 安全・安心の都市づくりの基本方針 3-5 地球環境と共生する都市づくりの基本方針 3-6 景観都市づくりの基本方針 3-7 都市基盤整備の基本方針
第3章 地域別構想	1 地域区分の設定 2 南部地域まちづくり方針 3 中南部地域まちづくり方針 4 中東部地域まちづくり方針 5 中央部地域まちづくり方針 6 北東部地域まちづくり方針 7 北部地域まちづくり方針 8 北西部地域まちづくり方針
第4章 推進方策 －中野のまちをともにつくる－	1 協働によるまちづくりの推進 2 身近な地区を単位とするまちづくりの推進 3 協働のまちづくりのすすめ方 4 区の取り組みの強化
資料編	1 中野区都市計画マスタープラン改定の目的と視点 2 中野区都市計画マスタープランの経過 3 用語解説



## 4. 計画目標年次と時代の変化に対応した見直し

### 4-1. 計画目標年次

---

中野区都市計画マスタープランはおおむね20年後の将来を想定してビジョンを描くこととし、計画目標年次を平成40年と設定します。

### 4-2. 時代の変化に対応した見直し

---

都市づくりは、長い期間を要することから、定めた都市計画マスタープランに基づいて継続的に進めていく必要があります。その一方で、社会経済情勢や区民の意識・生活スタイル、都市整備課題の変化、まちづくりの進捗状況などに的確に対応できる都市づくりであることも求められます。このため、都市計画マスタープランは、今後必要に応じ、中野区自治基本条例に基づいて、区民・土地所有者・事業者などとの協働によりの確に見直しを行います。

# 第1章

## 中野区のまちの現状と課題

# 1. マクロな社会経済動向

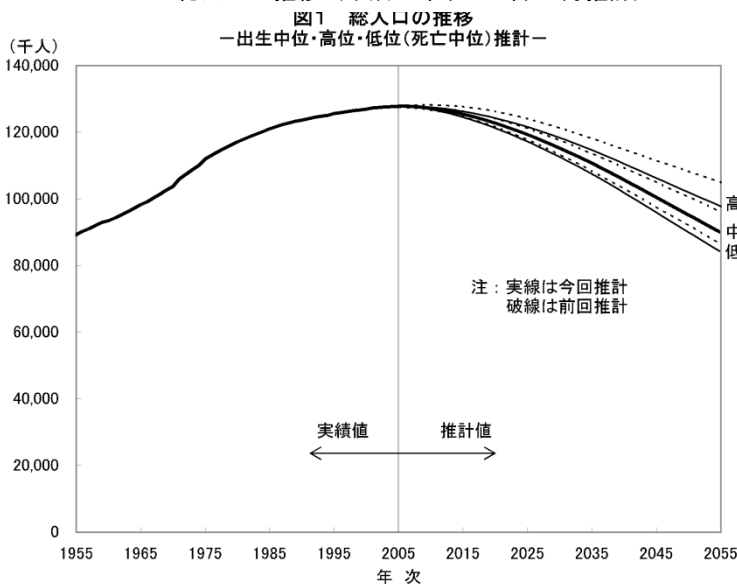
## 1-1. 人口の減少と地域間流動（地方から都市部への人口流入）

国立社会保障・人口問題研究所の平成18年12月推計によると、今後、人口は減少し続け、平成58年(2046)には一億人を割ると考えられています。人口が増加している東京都においても、平成27年をピークに減少傾向に転じると予測されています。

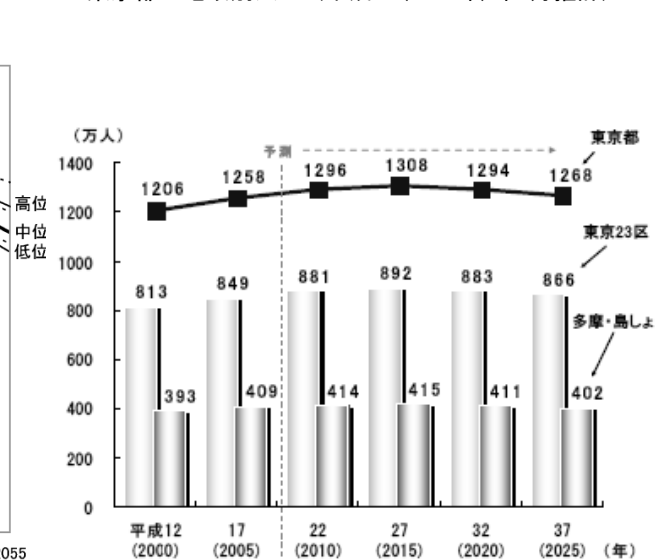
その一方で、関東地方や東京都の人口の減少は緩やかであり、特に、東京都は当面微増を続けると予測されています。東京及びその周辺は、地方からの流入が自然減を補い、今後も全国に占める人口シェアが拡大すると予測されています。

中野区においては、急激な減少あるいは増加の要因が想定されないことから、人口は当分横ばいで推移すると見込まれます。

■総人口の推移（平成18年(2006年)12月推計）



■東京都の地域別人口（平成19(2007年)年3月推計）



## 1-2. 少子高齢化の進行

わが国の老年人口割合は、平成17年の約20%から、平成35年には約25%、平成47年には3人に1人が高齢者になると推計されています(平成18年国立社会保障・人口問題研究所推計結果。出生・死亡中位)。また、世帯主が65歳以上の単独世帯(高齢者の一人暮らし)は平成42年までに倍増(総世帯の約15%)すると見込まれます。

中野区においても、今後高齢化が進行することから、それを踏まえた都市整備が求められます。

## 1-3. 地球温暖化の深刻化

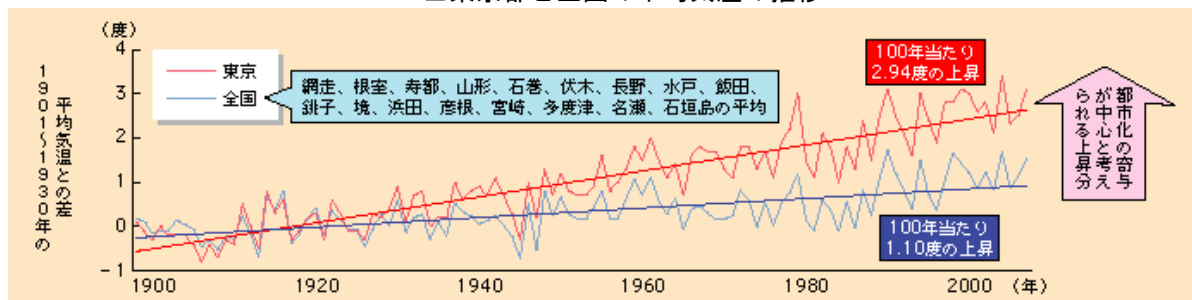
IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第4次評価報告書によると、1906~2005年の100年間で世界全体の平均気温は0.74度上昇しており、最も温室効果ガスの排出量が多いケースで100年後の世界の気温は4.0度上昇すると予測されています。さらに、温暖化に伴う海水膨

張などにより、21世紀末の海水面は1980～1999年の平均に対して最大59cm上昇すると予測されています。その原因として、人為起源の温室効果ガスの増加が指摘されており、また京都議定書においてわが国は温室効果ガスの6%削減（1990年比）が求められています。

また、近年、都市部の高温化がすすんでいます。特に東京にその傾向が顕著に見られ、気象庁資料によると、1900年から100年間で全国の平均気温は1.10度上昇していますが、東京都は2.94度も上昇しています。

中野区の都市整備においても、地球温暖化対策、ヒートアイランド対策のための一層の取り組みが必要です。

■東京都と全国の平均気温の推移



出典：国土交通白書

## 1-4. 地震

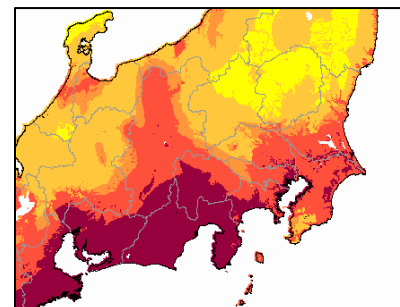
我が国は世界有数の地震国（1994～2003年にかけて発生したM6.0以上の地震のうち、約2割は日本周辺で発生している）であり、地震により大きな被害を受けています。

首都地域では、過去200～300年間隔で関東大震災クラス(M8)の地震が発生し、その間にM7クラスの直下型地震が数回発生しており、関東大震災から85年が経過している現在、いつ大地震に見舞われてもおかしくない状況にあります。

東京都の試算では、首都直下型地震（M7.3、発生18時、風速6m）が発生した場合、中野区では約3割の建物が焼失し、建物倒壊による圧死者が多数発生すると予測されるなど、地震への対応が急務となっています。

■今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率  
(2008年1月1日基準)

出典：地震ハザードステーション HP



## 1-5. 水害の多発

我が国の国土は急峻で平野は狭く、雨水は急勾配の河川を一気に流下し、都市部では短時間に大量の雨が降ると排水施設の流入能力を容易に超えてしまうなど、内水による水害が発生しやすい状況となっています。

さらに、近年、地球温暖化などの影響から年度別降水量の変動が大きくなり、集中豪雨、ゲリラ豪雨の発生が増加しており、台風などの熱帯低気圧強度の増大が予測されるなど、災害の拡大が懸念されます。

## 2. 中野区のまちの現状と動向

### 2-1. 人口

中野区の人口は、近年微増しています。また、20～30 歳代の単身者の割合が高く、それらの若者層の居住期間が短く人口流動が激しいのが特徴です。

- ・人口は近年微増傾向にある。
- ・人口密度は 23 区中最も高い。
- ・人口構成は 20～30 歳代の単身者割合が高い。
- ・65 歳以上の高齢者人口割合は増加している。
- ・人口の流動（転出入）が多く、居住期間が短い人の割合が高い。

### 2-2. 土地利用

土地利用については住宅系用途が約 8 割を占めていますが、木造住宅が密集している地区もあります。

建ぺい率が高く、オープンスペースが少ない状況にあります。

（土地利用）

- ・住居系用途が約 8 割を占めている。
- ・大規模な用地が多く発生する。（国家公務員宿舎の廃止、小中学校の跡地など）

（建物現況）

- ・2～3 階建ての建物が多く、容積率（ネット）が低い。
- ・狭あい道路に囲まれ、地震災害に対する危険度の高い木造住宅密集地域が多い。
- ・木造住宅密集地域では建ぺい率が高い（オープンスペースが少ない）。

### 2-3. 産業

優れた立地条件を有する割には企業、事業所数が少なく、就業者も流出する傾向にあります。しかし、商業の効率が高く、開発ポテンシャルは高いと考えられます。

- ・企業数は 23 区で最も少ない。
- ・中野駅周辺に商業施設が多く集積しているが、駅乗降客数に比べ集積は低い。
- ・小売業の事業所規模が小さいが、売場効率が非常に高くポテンシャルがある。
- ・商店街では空き店舗の増加などがすすんでいる。
- ・就従比が 0.82 で、自区内就業率も低い。

### 2-4. 都市基盤整備

建物が密集し狭あい道路が多い、公園の配置が偏っているなど、身近な基盤整備が遅れています。また、鉄道の利用が便利なのが特徴です。

- ・狭あい道路が多く、都市計画道路整備が遅れている。
- ・鉄道網が発達しており鉄道利用は便利であるが、鉄道駅の交通結節機能（駅前広場など）が弱く、また、地区によってはバスなど公共交通の不便なところもある。
- ・大規模公園の配置が偏っている。
- ・河川については地域の資源であるが、現状は親水性に欠ける。

### 3. 都市整備上の課題

項目		現況特性	課題
土地利用	用途地域	・住居系用途地域が約78%と大半を占める。その中で第一種低層住居専用地域が約41%と最も大きい。	・幹線道路沿道で商業地域と第一種低層住居専用地域の接する個所の協調と共存が課題
	大規模跡地	・区内に多く存在する国家公務員宿舎などの廃止・処分や、小中学校の再編がすすみ、大規模な用地が多く発生する。	・跡地の有効利用（跡地の存在は中野区の財産）
	密度	・建ぺい率が23区内でも非常に高く、オープンスペースが少ない。 ・木造建物が密集する住宅地が存在する。 ・低層の建物が多い。	・ゆとり、オープンスペースの確保 ・土地利用の高度化等を通じた密集状況の解消
活力	通勤流動	・就従比が1.0を下回り（23区の中で低位）自区内の就業率も低い。 ※就従比＝区内従業者数11万人/区内常住就業者数13万人	・区内における「職」機能の確保 ・働きやすさの向上
	産業	・企業数は23区で最も少ない。 ・産業プラットフォームとなる高等教育機関が少ない。 ・事業者意識調査では交通利便性の高さが高く評価されている。	・中野区のポテンシャルを活かした企業立地の誘導 ・高等教育機関との連携強化
	商業・業務	・中野駅周辺に集積するが、駅利用者数に比べて集積度は低い。 ・商店街では空店舗の増加などが見られる。	・中野駅周辺地区等における商業・業務機能の集積・育成 ・立地条件の良さ、購買客の多さを活かした小売業の活性化 ・商店街の活性化、商店街における商店の再編・集約

	地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の居住（若者層が生み出すエネルギーは中野の財産）</li> <li>・大規模用地が発生する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの資源の活用による活力増進</li> </ul>
	主な進行中のプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察大学校等跡地のまちづくりが進行中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中野の顔となる活気とにぎわいあふれるまちづくりの推進</li> <li>・防災拠点機能の形成</li> <li>・中野駅の改良</li> <li>・交通結節機能、回遊性の整備</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・西武新宿線の立体交差化が計画されており、輸送力強化、周辺の渋滞解消が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西武新宿線沿線のまちづくりの推進</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都高速中央環状線、山手通りの整備が進められ、東中野駅前広場の整備が予定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤施設整備に合わせた土地利用の高度化、商業・業務機能の集積</li> </ul>
住まい・住環境	住みよさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心に近く交通が便利で、生活関連機能が整い暮らしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住みよさの一層の向上</li> <li>・居住水準の向上</li> </ul>
	木造住宅密集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造建物が密集した住宅地が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造住宅密集地の災害に対する安全性の向上</li> </ul>
	生活道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅地内の道路が狭く、幅員4m未満の割合が極めて高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭あい道路整備、街区再編まちづくり（共同化など）</li> </ul>
安全・安心	地震・火災対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造建物が密集し、消防車両の入れない狭あい道路が多いため、火災危険度が高いなど、地震災害に対して脆弱な市街地構造である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に強い市街地への改善</li> <li>・建物の不燃化・耐震化、防災公園・避難路の整備、狭あい道路の拡幅</li> </ul>
	風水害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨時の河川、内水氾濫が発生するなど、都市型水害の危険性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川改修の促進</li> <li>・雨水流出抑制</li> </ul>
地球環境との共生	環境負荷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷の少ない公共交通の利便性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の活用によるCO2排出量の削減</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどりは少なく、特にまとまった緑が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化の推進、みどりの保全</li> <li>・緑のオープンスペースの整備</li> </ul>
景観	中野の顔づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中野駅周辺で大規模な計画的開発整備がすすめられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中野駅周辺の景観誘導</li> <li>・みどり豊かな公共空間形成</li> </ul>
都市基盤整備	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道網が充実し、公共交通の利便性が高いが、区南部など一部に公共交通機関の利用が不便な地区がある。</li> <li>・鉄道駅の交通結節機能（駅前広場など）が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の一層の活用（環境負荷、高齢化対応）</li> <li>・駅前の交通結節機能強化</li> <li>・オンデマンド交通等、柔軟な公共交通機関の充実</li> </ul>

	道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭あい道路が多く、都市計画道路整備が立ち遅れている。</li> <li>・南北交通が弱い。</li> <li>・西武新宿線は開かずの踏切が多く、渋滞が著しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭あい道路、都市計画道路の整備</li> <li>・円滑で安全な交通環境実現</li> <li>・西武新宿線の連続立体交差化</li> </ul>
	公園緑地など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模公園の配置が偏る。</li> <li>・宅地内の緑が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園整備の推進</li> <li>・緑化推進</li> <li>・既存の緑の保全</li> </ul>
	水循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川は良質な地域資源。</li> <li>・護岸が切り立ち水辺に近づけないなど、親水性に欠ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親水性確保</li> <li>・水辺のネットワーク</li> </ul>
その他	人口動態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は微増で推移し増加率は23区の中で低位。</li> <li>・23区の中で人口転出が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口流出防止と定住促進</li> </ul>
	人口世帯構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20～30歳代の単身者の割合が高く、かつ流出入が激しい。</li> <li>・15歳未満人口比率が低く、減少率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスある年齢構成の実現</li> <li>・ファミリー層が住み続けられるまちの実現</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京圏における若年単身層の居住ゾーンとしての役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後ともその傾向は継続すると見込まれる。</li> </ul>
	イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良好なイメージにやや欠ける。</li> <li>・庶民性、親しみやすさが区民に評価されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちのイメージアップ</li> <li>・個性の強化等によるまちの魅力向上</li> </ul>